

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア会議の際、職員全体で理念に基づいたケアが出来ているか話し合っている。また、開所前研修において理念についての話し合いの時間をもち意識づけを行った。	事業所内への掲示やスタッフ会議等で周知徹底が図られている。職員は理念を自分の言葉として語る事ができた。入居者に関わる際に理念を意識しながら具体的に取組もうとしている姿勢が窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を回しに行ったり地域の行事(三九郎、夏祭り)に積極的に参加している。市役所へ千羽鶴を届けに行く、幼稚園に雑巾を届けに行くなど地域との交流を図っている。	自治会に参加し地域住民の一員として地域活動や行事等に積極的に参加している。日常的に近隣住民等と挨拶を交わしたりボランティアや近所の人たちの訪問を受けるなど地域住民との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習やボランティアの受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には区長や民生委員だけでなく、消防・警察・学校の先生・スーパーの店長・近所の方々などをお呼びし、防災や防犯等の話をさせていただき、意見反映を行いサービスの向上に努めている。	近くにある同法人の在宅複合施設内のグループホームと合同で開催している。高齢者が巻き込まれる火災、事故、盗難などの事例報告や参加者との質疑応答などがあり双方向的な会議となっている。回を重ねる度に事業所の活動や役割が理解されつつあることが議事録等からも読み取ることができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会等に市町村担当者へ利用者の暮らしぶりやニーズを伝え、連携を深めている。また、法人が北部地域包括支援センターの依頼を受け開所しており、包括支援センターの職員と交流し情報交換している。	市の担当者には積極的に情報提供を行ない連携を図っている。何でも気軽に相談したり話せる関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は開いており、自由に外に出て玄関掃除や花の手入れ、畑仕事などが行えるようにしている。自由な暮らしを支えられるように、会議の場などで、ケアの振り返りを行っている。	身体的拘束や施錠は「行わない」「頼らない」ケアの実践に取り組んでいる。入居者は玄関や居間の続きにあるテラスや居室の引き戸などからいつでも自由に入出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	開所前の研修において高齢者虐待防止関連法に関する勉強会を行った。ミーティングなどでも虐待を見過ごさないように話し合っている。		

グループホームこまくさ野村宮の前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開所前研修において権利擁護に関する勉強会を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、看取りや医療連携体制等について時間をかけ詳しく説明し、家族の不安や疑問点を確認しながら同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には現状報告をするとともに、何でも言ってもらえる関係作りに努めている。また、運営推進会議に参加していただき自由に意見や要望を言ってもらえる機会を作っている。定期的にアンケートを実施し、運営に反映している。	入居者家族等には契約時やケアプラン作成時、状況報告時など、折に触れ意見・要望を出していただくよう伝えている。入居者家族アンケート調査も実施している。出された意見や要望については職員全員で話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話の中での問いかけから意見や提案を聞きだせるよう努めている。また、フロア会議・ミーティングの中で意見や要望、提案など交換し問題点の具体化、共有化に努めている。	会議では活発な意見交換がおこなわれており、その場での意見や提案は運営に活かされている。理事長は職員と個別に話す機会を設けており、積極的に職員と関わり合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻りに現場に来て利用者と過ごしたり、個別に職員の業務や悩みを把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集しなるべく多くの職員が受講できるようにしている。 また参加した研修報告は法人リーダー会議で伝達講習し、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や研修、事例検討などを通して他事業所との交流を持ち、質の向上に励んでいる。同法人のグループホーム同士でもリーダー会議や運営推進会議等を通して情報交換を行っている。		

グループホームこまくさ野村宮の前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活面・身体面の状態を把握するように努めている。また、利用者、家族には必ず来訪していただき希望や不安を理解・工夫し、よい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族にグループホームの様子を見ていただくとともに、今までの家族の苦労やこれまでの経緯等をゆっくりお聞きし、入居されてからの要望や不安などの話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況をよく聞き、必要であればケアマネージャーや北部地域包括支援センターに繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は一緒に暮らす仲間として不安・喜び・楽しみなどを共にし、支えあえる関係作りに努めている。また、漬け物等の料理や畑仕事、裁縫等多くを教えていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告・相談すると共に、誕生日会に参加していただくなど家族も関われる場面作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、近所の方、親戚等の来訪や手紙のやりとり、行きつけの美容院へ出かけたり、友人の美容師が来訪されたりしている。馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	入居者が自分らしく生き生きと暮せるようにと生活歴を参考にしながら馴染みの人や場所との関係を継続できるよう積極的に支援している。手紙のやり取りの輪が友人や親戚へと広がったり、得意分野の手芸作品が廊下のあちこちに飾られるなど、在宅でしていた好きなことや交友関係を入居後も続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごせる場面作りや一人一人が役割を持った活動などを通して、利用者同士の自然な人間関係の構築が円滑にできるように支援している。		

グループホームこまくさ野村宮の前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了された方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での言動や表情・行動などから本人の思いを汲み取るようにしている。確認できない方には家族などから情報を得ている。	入居者と日々関わりながら職員は常に「どうしたいのか」、「何をしたいのか」等、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や過去の暮らしぶり、他のサービス利用時の様子等、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の暮らし方や生活リズムを理解すると共に、出来ることを大切に、その人の全体像把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日頃の関わりの中で思いや意見を聞き介護計画に反映させるようにしている。また、フロア会議やミニ会議の中でモニタリング、カンファレンスを行っている。	本人、家族の意向を基に職員が話し合いながら介護計画を作成している。定期的な見直し以外に状態や状況に変化が生じた場合にも直ちに見直しを行ない現状に即したものに作り変えている。3ヶ月毎に必ず家族等に介護計画の遂行状況を説明・報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつでも全ての職員が確認できるようにしており、勤務開始前の記録の確認を義務付けている。また、日々の記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院の付き添いや送迎、個別的な買い物の支援など柔軟に対応している。		

グループホームこまくさ野村宮の前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に警察、消防、教育機関、民生委員、ボランティア、近隣のスーパー、薬局、包括支援センター他をお呼びし、安心して地域で暮らしを楽しむことができるよう情報交換し、協力体制を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は本人、家族の希望に応じて対応しており、いつでも相談できる関係となっている。	入居前のかかりつけ医や医療機関となっている。通院や受診に関しては家族と連携しながら支援している。受診結果などは電話で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう気を配り、早期発見に取り組んでいる。変化等で気付いたことがあれば速やかに看護師に報告し、適切な医療に繋げている。24時間いつでも看護師に相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人の情報などを医療機関に提出し職員も見舞いに伺うようにしている。医療機関、本人、家族と入院早期から退院計画を話し合いながら円滑なホームへの帰宅ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開所してまだ一年で終末期ケアについてはまだまだ経験が浅いが、職員皆で施設長の書いたこまくさ便りのコラムを読むなど、日々研鑽している。	重度化した場合や終末期に向けての事業所の方針を契約時に説明している。このホームで最期まで利用していきたいと望む入居者、家族が多い。職員は看取りに関する研修を受けたり、資料を参考にしながら研鑽中である。解らない事があれば職員間で話し合ったり理事長に相談するなど看取り支援にむけて意欲的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所時研修や新人研修の場で対応について勉強する機会を設けている。会議の場で急変時の対応や実際に起きた事故の対応などを話し合い勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者と一緒に毎月避難訓練を行っている。内、年2回は消防署の指導を受けている。その際、通報訓練や消火訓練を行っている。	職員全員が夜間想定避難誘導訓練を体験できるよう毎月、昼夜想定訓練を交互に行っている。今後は避難訓練の様子を地域にも配布しているこまくさ便りに載せることや地域防災訓練に参加すること等も検討している。	

グループホームこまくさ野村宮の前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての敬意を払い、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケア、自己決定しやすい言葉がけをするよう努めている。また、利用者の尊厳あるケアやプライバシーの保護について取り組んでいる。	笑顔で話しかける職員に入居者は笑顔を見せて返している。一人ひとりの気持を尊重しながらプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できない方には表情や反応から本人の希望を組み取り自己決定ができる様に可及的補佐に努めている。難聴の方には筆談し、あいまいな言葉は使わないよう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の体調に配慮しながら、一人一人のペースを大切に、その日その時の気持ちを尊重し、その人らしく生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪型など本人の好みに整えられるよう支援している。 毎日お化粧されたり、馴染みの美容院でカットや毛染めをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	漬物や煮物を調理したり、食事の準備や片付けなど職員と一緒にしている。食事の時も各テーブルに職員も加わって楽しめるように努めている。	食堂に入居者が集まり食事の準備をしていた。食事中は料理の出来栄を褒めたり和やかな雰囲気であった。入居者は出来る範囲で食事の準備や盛り付け、後片付けに加わっている。「ありがとう」、「助かりました」などお互いに労をねぎらっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使用し、水分量、食事量の把握ができるよう対応している。一人ひとりの嗜好に合わせて個々にあった支援を工夫している。月1回栄養士が訪問し、一緒に食事をしながら利用者の希望、要望を聞いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけ、見守りを行っている。できない方には、利用者の状態に合わせて口腔ケアを行っている。特に就寝前の口腔ケアは確実にできるよう支援している。		

グループホームこまくさ野村宮の前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンに応じた排泄支援を行っている。自尊心に配慮し、一人一人の排泄サインを察知してさりげなくケアしている。トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パット類も本人に合わせ検討している。	排泄チェック表を活用しながらトイレで排泄できるように個別の支援が行われている。夜間は睡眠を妨げないように配慮しながらトイレ誘導やパット交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、便秘の方には水分補給を促したり、バナナ等繊維の多い食材や乳製品などを食事、おやつに取り入れ自然排便できるよう支援している。お腹のマッサージや体操・散歩等体を動かすよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めず、本人のその日の体調や希望を確認し入浴していただいている。一人一人の気持ちや今までの習慣に合わせた支援をしている。	毎日入浴する人や曜日を決めて入る人など本人の都合や希望に沿いながら支援が行われている。一般家庭にあるような馴染みの浴槽で柚子湯や菖蒲湯、入居者が選んだ入浴剤を入れ楽しんでいる。入居者にはとても喜ばれており入浴を拒む方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活ペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう日中の活動に配慮している。また、眠れない方には話をしたり、ホットミルクなどの温かい飲み物を用意する等対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを利用者別に作成し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬は個別に対応し、内服できているか確認している。処方の変更があった場合は、個人記録・申し送りノートに記録し、状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、畑仕事、漬物、縫い物、洗濯物干し、洗濯物たたみ、献立書きなど利用者一人一人の得意分野や知恵を発揮できる場面を多く作り、感謝の言葉も伝えるようにしている。外出や誕生日会の楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は積極的に散歩に出かけ、風景や草花から四季を感じていただけるよう努めている。買い物にも日常的に出かけ、好きな物を購入している。近くの食堂や回転寿司などの外食も楽しんでいる。こまくさ野村の行事にも希望を聞きながら頻繁に出かけている。	一人ひとりの希望に沿いながら買い物やドライブ、外食など外出の機会を多くするよう積極的に支援している。四季折々、皆で出かけては花見や紅葉狩りなどを楽しんでいる。	

グループホームこまくさ野村宮の前

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族のご了承を得てお財布を手元に持っている利用者もいる。家族よりお金を預かり事業所が管理している方でも、買い物に行った時やおやきやパンの訪問販売の時には、本人が直接支払ったりすることを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて、家族などに電話をかけたたり、取り次いだり、プライバシーに配慮しながら支援している。年賀状や自作の絵手紙など、家族や知人に送っている。知人と手紙のやりとりをしている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感のあるものを活用しながら、家庭的な雰囲気作りに努め、居心地よい場所、安心できる場所になるよう工夫している。	廊下は広く、要所要所に洒落た仕切りがある。壁には入居者の作品が飾られている。居間と食堂、キッチンが一体となっており、憩いのスペースとなっている。入居者のお気に入りのスポットである居間のソファに腰掛ければ木々の合間から通りを行き交う車などを見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のあちこちに椅子を置き、一人で過ごせる空間作りを行っている。リビングには畳スペースやソファがあり、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇、本など自由に持ち込んで頂き、家族の写真や利用者の作品なども飾り、居心地のよい空間作りに努めている。	長野県史が何冊も机の上であり、パソコンやコピー機が設置されいつでも仕事ができるようになっている居室が見られた。また、仏壇が置かれ、ガラス戸を開ければ木々のある庭へ自由に入出入り出来る居室もある。居室のスペースも8畳ほどでゆったりと広めに居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に合わせて、安心して暮らせる環境作りに努めている。混乱や失敗が生じた時はその都度原因を職員間で話し合い、本人のわかる力を見極め自立支援につなげている。		